拝啓　今年も早や8月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は7−8月と蒸し暑い日が多く、毎日を過ごすのに苦労されたことと思います。近所の公園では、今は百日紅の花が咲いております。

今回は、小西芳之助先生の『エペソ人への手紙講解説教』からの引用の第3回目です。今回のエンカウンターの6頁「宗教の本領は来世」には、次のように書かれています。

「宗教の本領は来世

それから、その10年前に読みました内村先生の『一日一生』、11月15日。エペソ書、本日の説明として、レッスンとして大変適当ありますから、もう一度読ませて頂きます。「人は生まれながらにして現世的である。彼は、来世のことはこれを思わざらんことをつとむ。彼に現世的なるを勧める必要は少しもない。水の低きにつくがごとくに、人は地につくものである。而して宗教は、人を地より天に向って引きあぐるために必要である。宗教にして、明白に来世的ならざらんか、世に来世を示すものは他に何ものもないのである。言うまでもなく、宗教の本領は来世である。政治、経済の本領が現世であるがごとくに、宗教の本領は来世である。来世を明白に示さず、これに入るの道を明白に教えない宗教は、宗教と称するに足らざるものである。宗教は、人を現世の外に導き、彼の来世獲得の道を供して、間接にしかも確実に現世を救うのである。」

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』8月19日

「よく始めることは、半分成就したこと

私はテレビで相撲を見るのが好きである。

勝負は、最初の立ち上がりでほとんど決まってしまうと言う。人生もまた、そうであると思う。今日の一日は、どうして始めるかによって決まる。

今日一日をどうして始めるかを注意しようではないか。

毎朝、天国に一日近づいたことを神に感謝する祈りと、主のみ名を呼びつつ、今日一日の義務を尽くそうとする決心とをもって起き上がろうではないか。」

新渡戸稲造先生『一日一言』8月7日

「同じ人を匹夫にするか豪傑にするか、小人にするか君子にするか、どちらにも作り上げる力は、誰しも必ず出会いする落胆失望の時に起こる一決心にあるのである。最後の15分にきて、もう駄目だと斃るる者はそれきり。もう一つと立ち上がれば後はしめたもの。」

昔、うつ病を患った時、このことばに励まされ、立ち直ったことを思い出します。

松下幸之助先生『続・道をひらく』「刻一刻」

「不安、心配は人間につきものである。人生につきものである。神ならばいざ知らず、真剣に考えれば考えるほど、刻一刻と不安がつきまとう。心配がつきまとう。

これでよいのか、このままでよいのか。是と信じてやったが果たしてどうなるのか。うまくいけばいくで不安になり、つまずけばつまずくで心配する。あれこれと、とめどもないけれど、とめどもないところに人の世の味わいもあると言えよう。

ただここで大事なことは、その不安、心配にいたずらに動揺しないことである。たじろがないことである。そして新たなる志をもって、新たな勇気を、刻一刻に生み出してゆくことである。刻一刻の不安のなかで、刻一刻に勇気を生み出す。そこに人間の真の力がある。尊さがある。」

内村鑑三先生『続一日一生』8 月 4 日

「了解（わか）って信ずるのではない。信じてわかるのである。わかって信ずるのは信仰ではない。信ぜざるを得ざるが故に信ずる、そのことが信仰である。イエス、その弟子トマスに言いたまいけるは、「なんじ、われを見しによりて信ず。見ずして信ずる者はさいわいなり（ヨハネ伝 20・29）と。そうして、わかるのは見るのである。わかって信ずるのは、見て信ずるのである。そうしてわからずして信じ得る者がさいわいなる者である。神とその聖業（みしごと）に関することは、これ、到底人間にわかることではない。わかるのを待って、人はとうてい神を信ずることができない。ゆえに信ずるのである。神の聖語（みことば）なるがゆえに、疑わずして、ただ信ずるのである。これ決して迷信ではない。子が父の言を疑わずして信ずるのは決して迷信ではない。これ、まさに信ずべきことである。わからざればとて、父の言と言えども遅疑してこれを信ぜざるのは、これ頑迷である。」

バークレー先生『ウイリアム・バークレイの一日一章』（8 月 2 日）

「自分の悲しみを忘れる最善の道、いやおそらく唯一の道は、他者の悲しみのなかに入ってゆくことである。ひとりだけ座って考え、思い出し、物思いにふけり、人を恨んでいたのでは、事態はますます悪くなるばかりである。そこから抜け出す唯一の方法は、他者の悲劇に我が身を投げ入れることである。他者を助けて悲しみに堪えさせることによって、われわれ自身、おのれの悲しみに耐えることが出来るのである。

われわれ置換えの原理を忘れてはならない。自己の悩みを取り除くにいちばん効果的な方法は、他者の悩みをともに分かつことである。」

レテー・B・カウマン先生　『荒野の泉』6 月 21 日

「君が戦いに立つところ
そこは君がおるべき場所なり
君が無用なりと思うところにも

君の顔をかくすなかれ
よし場所はいずこなりとも
神は目的ありて君をそこにおきたもう
神はそのために君を選びたまいしを思い、
忠実に働け
武具を身につけて
労苦にも休息にも忠実なれ
事柄は何なりとも
神の道は最善なるを疑うな
戦いにも歩哨にも堅く立ちて真実なれ
これ主の君に与え給いし働きなり

今井館の高円寺東集会では、小西先生の「コリント前書」及び石館守三先生の「ヨハネ黙示録」の聖書講解を聞いていますが、石館守三先生が、黙示録第 5 章の子羊の説明を、旧約聖書の過越しの祭りの子羊、イザヤ書第 53 章の罪を贖うイエスの到来の予告として説明されたことに対して、感銘を受けました。

新型コロナについては、病院やクリニックではマスクをつけるように指導されていますが、電車の中とかスーパーでも、さすがこの夏の暑さの中では、マスクをしない人の方が多くなりましたが、外出された後の手洗い、うがいなどは、実行されて、十分ご注意して、コロナやインフルエンザにかからないように注意されるよう、祈り申し上げます。

2024 年 8 月 21 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位